

購読者に電子メールで送信したものをそのまま掲載しています。等幅フォントでお読みください。

< C U E > 利用教育委員会通信 第 69 号 (18 巻 5 号) 2008. 2. 29 発行

■■■■ ■ ■■■■ 利 用 教 育 委 員 会 通 信
■ ■ ■ ■ ■ 日 本 図 書 館 協 会 図 書 館 利 用 教 育 委 員 会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・ 「< C U E > 利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・ < C U E > とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・ 利用教育関連の情報をお寄せください。
- ・ メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp

□ 目次

- (1) 第 11 回図書館利用教育実践セミナー【in 京都】のお知らせ
- (2) 第 93 回全国図書館大会 東京大会 (第 21 分科会) の報告
- (3) 第 9 回図書館総合展フォーラム講演会の報告
- (4) 資料紹介
- (5) 図書館利用教育文献一覧 (2007 年 4 月～2008 年 1 月発行分)
- (6) 編集後記
- (7) 利用教育委員会委員

-
- (1) 第 11 回図書館利用教育実践セミナー【in 京都】のお知らせ

●2008 年 3 月 16 日 (日) 9:30-12:40

指導サービスの次のステージへ！

■基調講演 「力」とするための工夫：教員からのヒント

講師：丸本郁子 (大阪女学院短期大学名誉教授)

“人と情報が結ばれたとき、そこに力が生まれる”・・・これが私たち図書館人の仕事の出発点でしょう。人と情報を結ぶ一つの切り口として提供されてきた図書館利用教育を、今、情報リテラシー教育という広がりの中で捉え直し、人々のエンパワメントに役立つように展開していく手がかりを提供します。教員という立場で学生の成長を支援してきた経験の中で学んできたこと、見えてきたことを素材に、具体例を示しつつ、今、自分のおかれている場でできることを提案します。

●実践講座 1 情報の批判的読解をどう教えるか：司書に求められる
情報評価力

講師：有吉末充（京都学園大学）

情報メディアが多様化した現代、私たちは多種多様な情報を手に入れることが可能になりました。しかし、その情報を私たちはどれほど有効に活用できているのでしょうか？インターネットで手軽に情報が得られるようになった反面、信頼度に疑問のある情報も数多く流通しています。情報の重要性、信憑性を評価する作業はこれまで以上に必要性を増していると考えられますが、はたして「情報の評価」の重要性はどれほど意識されているのでしょうか。これまで図書館での情報リテラシー教育といえば、情報探索法指導までで終わりでしたが、これからもそのままいいのでしょうか。真の意味での情報リテラシーの習得のためには、情報を評価する能力が必要です。これから情報リテラシー習得支援を行おうとする司書には、当然「情報の達人」たるにふさわしい情報の批判的読み取り能力が求められます。今回のセミナーでは、様々なメディアが伝える情報の特性を検討しながら、利用者が情報の評価力を獲得していくためにどのような支援が図書館に可能なのか、司書に必要な情報を評価する能力とはどのようなものかを考えていきます。なお、学術論文の評価やデータベースの評価については今回は取り上げません。

●実践講座 2 利用者はなぜ論文検索ができないのか：躓かせないための4つの指導ポイント

講師：仁上幸治（早稲田大学図書館）

「情報検索指導における良い例題・悪い例題（初級編）」（2006年3

月)に続き、好評だった中級編(2006年11月)の内容の中から、利用者が論文検索で躓く点、データベース講習会の内容、図書館の説明が分かりにくい理由、に関する理論部分を再構成し、検索効率向上のための指導上の要点を提示します。

- 会場：キャンパスプラザ京都(JR京都駅ビル向かい)4階第3講義室
<http://www.consortium.or.jp/campusplaza/guidance.html>
- 対象者：図書館職員、教職員、JLA会員、図書館関係団体、他
- 主催：日本図書館協会(JLA)
- 参加(資料)費：会員500円/非会員1000円
- 申込：下記の申込書に記入のうえ、JLA事務局あてに電子メールでお申し込みください。
送付先：cue@jla.or.jp
- 定員：170名、先着順受付(当日受付の場合、立ち見になることがあります。)
- 締切：3月7日(金)
- 詳細：利用教育委員会ホームページ <http://www.jla.or.jp/cue/>

●申込書

《図書館利用教育実践セミナー》参加申込書：第11回

[2008年3月16日(日)]

- 申込日：
- 氏名(氏名ヨミ)：
- JLA個人会員/施設会員/非会員(会員の場合は会員番号：)
- 所属：
- 住所：
- 電話番号：
- 電子メール：

※記入いただいた情報は、今回の研修の企画・運営の参考にするほか、今後、研修等の情報をお送りする場合などを除き、利用、公表することはありません。

【すでに申し込まれた方へのお詫び】

第11回図書館利用教育実践セミナー申し込みありがとうございました。

受付書 Subject を間違えて送ってしまい、御迷惑おかけして大変申し訳
ありませんでした。改めて、第 11 回図書館利用教育実践セミナー受付書
お送りいたしましたので、当日お持ち下さい。

受付担当 久保木いづみ

(2) 第 93 回全国図書館大会 東京大会（第 21 分科会）の報告

久しぶりの図書館大会 in Tokyo
—ポスターセッションのにぎわい再び—

青木玲子（埼玉県男女共同参画推進センター）

今年の東京大会を機にまとめた、利用教育委員会歴史年表によると、
図書館利用教育委員会は、1995 年、初めて新潟で単独分科会を開催した。
以来、2001 年の岐阜大会まで、図書館大会の分科会開催は、委員総力を
挙げての活動でもあった。まず、テーマの議論から始まり、講演者の厳
選、事例発表者の情報探し、会場設営、運営案などの協議。

第 14 分科会の特色で、講演のみではなく、利用教育の実践情報を共有
する事例発表やポスターセッション企画は、会場の設営計画を大掛かり
なものとした。毎年のテーマに、この人こそとお願いした講演者、事例
発表者、各地・各種図書館員・参加者との交流会も終了後の欠かせない
企画であった。

「図書館の売り」に始まり、今さかんに話題となる「情報リテラシー」
は 10 年前のテーマで、SLA のポスターの紹介、グッズの開発などには早く
から取り組んだ。いつも、何かしら、話題を提供、多くの方に参加して
いただき、にぎわっていた分科会であった。

一通りの会の進行案が決まると、次はなぜかご当地温泉、美味しいもの、
美しい景色情報探し、こっちもかなり総力をあげた。かくして、どの大
会もくっきりと印象深く、エピソードに事欠かない。図書館大会、私の
一番の印象は、初めて委員として参加した山梨大会の設営前の一杯、絞
りたてワインの香りである。

今年の東京大会は、久しぶりの分科会開催でもあり、これまでの歴史

とこれからを見つめつつ、利用教育委員会の特色であるポスターセッションとシンポジウムで会場の参加者の皆さんと交流を深めた。相変わらず会場設営に委員は頭を悩まし、パネルの運搬に汗を流した。プログラムのとおり、事例も、以前は個人的に利用教育に熱心に取り組んでいる図書館員を探すことであったが、大学図書館の組織としての取り組み、また全国各地の公立図書館、県立高校のプロジェクトチームなど、利用教育の多様な展開に、あらためて目を瞠る思いであった。大会のグッズ、情報リテラシーしおり「なんでやねん・どないなってるねん・ほんまかいな」は、夏の合宿の夜の愉快的な会話から産まれた。図書館利用教育委員会は、いままでの大会分科会のノウハウを活かしつつ、図書館総合展、年三回の実践セミナーの開催へと新しく力を注いでいる。

(3) 第9回図書館総合展フォーラム講演会の報告

情報検索指導法の応用編は昨年を超える参加者で盛況

戸田光昭（駿河台大学名誉教授）

日本図書館協会（企画・運営：図書館利用教育委員会）は、第9回図書館総合展フォーラム講演会を開いた（2007年11月8日15時30分から17時、パシフィコ横浜）。講師は昨年にひきつづいて、仁上幸治氏（早稲田大学図書館）で、「情報検索指導における良い例題・悪い例題《応用編》—データベースの特徴を紹介する方法—」と題して、「情報専門職の指導力を講習会でアピールしよう！」というメッセージを具体化した。これまでの初級編、中級編に続き、今回は、講師の図書館における実績をもとに、「論文データベース講習会実演」として、各データベースの特徴を適切に紹介する例題の作り方を、スライド（パワーポイント）を使って具体的に紹介した。参加者には、事前に、申し込み時、あるいはJLA利用教育委員会メールマガジン等を使って、今回のテーマ関連の質問や情報提供を呼びかけており、最後の時間を事前提出質問・課題に対する回答に使った。今回の講演を契機に、使っている例題、困っている点などの情報を交換し、《例題バンク》による情報の共有と活用を提唱した。

参加者は、大学図書館を中心として各館種の図書館員や教員が173名集まり、盛況であった。アンケートの回答では、「大変良かった」が

44%、「良かった」は43%で、良いという評価が87%に達した。また、自館の「改善策のヒントになったか」に対しては、74%が平均点以上の評価をしている。今後の希望では、シリーズで企画して欲しい、上級編も期待しているという要望に加えて、基礎編をもう一度聞きたいというものもあった。

[出典]

戸田光昭「第9回図書館総合展フォーラム開催 情報検索指導法の応用編は昨年を超える参加者で盛況」『図書館雑誌』Vol.102, No.1, 2008.1, p.6-7.

(4) 資料紹介

利用者の求める『図書館学講座』を具体的に提案した画期的な本！！
の紹介

戸田光昭（駿河台大学名誉教授）

『図書館でこんにちは—本に出会い、人に出会える楽しい場所へ—』
近江哲史著 日外アソシエーツ 2007年12月発行 246p.（日外選書
Fontana）1,900円（税別）

著者の近江哲史さんは、これまでに『図書館に行ってくるよ』、『図書館力をつけよう』という2冊の図書館に関する本を出している。この2冊は、話題の本となり、図書館サポートフォーラム賞を授賞した。今回は、利用者として、積極的に地元の図書館活動に関与してきた実績を、かなり具体的に書き、それらをもとにして、次のステップ、すなわち図書館運営にまで関わろうとする意欲的な内容である。

著者は、最初は単なる一利用者に過ぎなかった。しかし、ライフワークの一つである「自分史」の執筆指導、実践などを通じて、図書館のヘビーユーザーになり、地元の公共図書館のボランティア活動の一翼を担うようになる。そのうちに、ボランティア団体からの代表として、図書館協議会の委員になった。しかし、この協議会は図書館法に書かれているにもかかわらず、形式的で、実効性の無いものであった。そこで、図書館協議会を活性化することを始めた。協議会とは別に懇話会を開き、

委員の意思疎通ができるようになったために、実質的な協議会が行われるようになったという。

著者の属するボランティア団体は、さらに進んで、NPO法人をつくり、図書館業務運営受託の準備を始めた。これは2007年4月のことである。そして、2008年4月から業務受託をすることが決まった。単なるボランティア団体ではない、実践へと動き始めたのである。

本書では、後半で、「図書館は宝の山よ」「宝の山をもっと豊かに」という二つの章を設けて、図書館専門家や現場の人たちがあまり気をつけないが、重要なポイントを指摘し、一般の人が、もっと豊かな生活を送るには、いかに図書館が重要であり、身近な存在なのかを、事例をあげて、分かりやすく説いている。

第6章「宝の山をもっと豊かに」では、さまざまな提案をしているが、利用教育にもっとも関連するものとして、「利用者の望む「図書館学講座」がある。この講座というのは、いわゆる講座もので、ここでは図書館学を総合的に学ぼうとする人たちのために編集され、全10巻から15巻程度で構成されている。

これを図書館員本位ではなく、図書館利用者を問題意識のターゲットにおけば、どのような内容になるかという視点が新鮮である。新しい図書館専門職養成を考える場合に、大変参考になる。図書館利用教育においても、当然考慮すべき観点であろう。その構想を以下で紹介する。

- ・ 第1巻 利用者は何を求めているか（館に来る人來ない人、図書館利用心理学など）
- ・ 第2巻 どんな本を揃えるか（選書技術など）
- ・ 第3巻 利用者の質問にどう答えるか（レファレンスの技術など）
- ・ 第4巻 利用者の要望にどう応えるか（予約、周辺施設からの借用、購入の方法など）
- ・ 第5巻 人と本を危険から防ぐか（図書館の施設と構造、館内点検の方法、危機管理など）
- ・ 第6巻 どんなイベントを行うか（人の集まるイベントの方法など）
- ・ 第7巻 図書館の基礎知識（図書館の歴史、日本の図書館と世界の図書館など）

・補巻 参考資料、索引

図書館関係者だけではなく、一般市民もこの本を読むと、これまでとは、全く違った「新しい図書館像」を発見することができる。ぜひ一読をお薦めしたい。またこれらの提案を実践していきたい。

(5) 図書館利用教育文献一覧 (2007年4月～2008年1月発行分)

・対象誌は次の通りです。

『医学図書館』 『学校図書館』 『川村学園女子大学研究紀要』 『現代の図書館』 『出版ニュース』 『大学図書館研究』 『図書館雑誌』 『NIKKEI NET』 『病院図書館』 『ほすびたるらいぶらりあん』

- ・この文献一覧の情報は、当委員会委員が現物により収集したものです。内容の誤りや採録されていない文献にお気づきの方はご連絡ください。
- ・収録対象期間には多少ずれがあります。
- ・上記の雑誌以外でも必要に応じて採録しています。
- ・一部の文献には解題を付し、担当者の署名を末尾に記しました。
- ・書誌事項の先頭に館種を【大学図書館】【公共図書館】等で示し、館種別にリストアップしました。
- ・◆は利用教育関連文献、◇は少し広く採録した参考文献です。

【大学図書館】

- ◆阿部信一「図書館利用者へのPubMed検索指導」『病院図書館』26(3), 2007.1, pp.105-112.
- ◆市川美智子 坪内政義「医療・健康に関する地域連携パスファインダーの作成」『ほすびたるらいぶらりあん』32(4), 2007.12, pp.245-249.
[内容] 愛知医科大学医学情報センターが隣接する地域の3市1町の公共図書館と連携して、医学領域のパスファインダーを作成した事例報告である。医療の専門家向けというよりも、一般市民でも分かる病名で作成されており、患者を含め一般人への医療情報提供のあり方を検討している。(K.W.)
- ◆市古みどり, 上岡真紀子「情報リテラシーのためのウェブチュートリアル開発: KITIE(Keio Interactive Tutorial on Information Education)の事例」『医学図書館』54(1), 2007.3, pp.37-41.
- ◆上岡真紀子, 市古みどり「図書館員による情報リテラシー教育～現在・過去・未来」(特集: 情報リテラシーの育成と図書館サービス)

『現代の図書館』45(4), 2007.12, pp.226-233.

- ◆大谷朱美「教員との連携による情報リテラシー教育支援 ◆東京学芸大学附属図書館事例報告」(特集:情報リテラシーの育成と図書館サービス)『現代の図書館』45(4), 2007.12, pp.213-219.
- ◆小松泰信「情報リテラシー科目のeラーニング化に伴う学習支援体制」(特集:情報リテラシーの育成と図書館サービス)『現代の図書館』45(4), 2007.12, pp.190-197.
- ◆JLA 図書館調査事業委員会「『日本の図書館2006』大学図書館におけるその他のデーター「学外者へのサービス」と「利用教育」」(数字で見る日本の図書館 その36)『図書館雑誌』102(2), 2008.2, pp.368-369.
- ◆富永未来(他著)「第14回医学図書館員基礎研修会;グループ3-B:情報リテラシーの向上を目指して」『医学図書館』54(4), 2007.12, pp.368-369.
[内容]利用者教育にむけての今後の課題を,広報・ガイダンス・図書館員のスキルアップの観点から検討している。(K.W.)
- ◆長澤多代「情報リテラシー教育を担当する図書館員に求められる専門能力の一考察ー米国のウエイン州立大学の図書館情報学プログラムが開講する「図書館員のための教育方法論」の例をもとに」『大学図書館研究』(80), 2007.8, pp.79-91.
- ◆米澤誠「レポート作成を起点とした情報リテラシー教育の試み(特集第13回医学図書館研究会・継続教育コース)」『医学図書館』54(2), 2007.6, pp.160-165.

【公共図書館】

- ◆片山善博「図書館は民主主義の『知の砦』」(ビジネスコラム 片山善博の直言・苦言・提言 第10回)NIKKEI NET (2007/12/27)
<http://bizplus.nikkei.co.jp/colm/katayama.cfm?i=20071220c2000c2&p=1>
- ◆小林隆志,網浜聖子,松田啓代「図書館の活用法を伝授します!!~鳥取県立図書館の実践から ◆図書館は公務員・教職員の情報リテラシー向上に寄与できるか?」(特集:情報リテラシーの育成と図書館サービス)『現代の図書館』45(4), 2007.12, pp.198-204.
- ◆高田淳子「公共図書館における情報リテラシー教育の現状」(特集:情報リテラシーの育成と図書館サービス)『現代の図書館』45(4), 2007.12, pp.205-212.
- ◆藤田節子「公共図書館における情報リテラシー支援の現状ー情報リテ

ラシー支援講座の立案に向けて」『川村学園女子大学研究紀要』18(2), 2007, pp. 53-73.

【学校図書館】

- ◆「情報活用能力の育成に期待される学校図書館：第9回学校図書館セミナー開催」『学校図書館』No. 685, 2007. 11, p. 10.
[内容] 第9回学校図書館セミナー開催の報告。(S. A.)
- ◆伊藤修久「授業のねらいを達成するための図書館利用—社会科『大好き図書館もっと読もう もっと調べよう』」『学校図書館』No. 680, 2007. 6, pp. 23-25.
- ◆金沢みどり「PISA型『読解力』と情報活用能力の育成」(特集1 学習指導と学校図書館)『学校図書館』No. 680, 2007. 6, pp. 15-17.
[内容] 図書館利用教育としてオリエンテーションに言及されている。(S. A.)
- ◆金沢みどり「問題解決における情報検索とメディアの活用」(教育時報110)『学校図書館』No. 685, 2007. 11, p. 56-57.
[内容] PISA型読解力とNIE活用の意義。(S. A.)
- ◆鎌田和宏「小学生に情報リテラシーを育てる」(特集：情報リテラシーの育成と図書館サービス)『現代の図書館』45(4), 2007. 12, pp. 220-225
- ◆小谷田照代「情報活用能力育成に向けた事典・図鑑利用の指導」(キラリ！司書教諭40)『学校図書館』No. 681, 2007. 7, pp. 77-79.
- ◆小谷田照代「学校図書館を必要とする授業を展開する」(キラリ！司書教諭41)『学校図書館』No. 682, 2007. 8, pp. 76-78.
[内容] 学校図書館の情報活用センターとしての機能をひきだすための授業の方法についてレポートされている。(S. A.)
- ◆佐藤照子「未来をつくる学習センター～総合的な学習にかかわる～」(キラリ！司書教諭44)『学校図書館』No. 685, 2007. 11, p. 77-79.
[内容] 学校図書館での総合的な学習との関わりとの関係でガイダンスや資料の準備について簡単にふれている。
- ◆仲矢理絵「楽しく取り組める低学年の調べ学習—じどう車はかせになろう！」『学校図書館』No. 680, 2007. 6, pp. 18-20.
[内容] パスファインダーの活用について言及されている。(S. A.)
- ◆成田康子「図書館 パスファインダーって何。」(ブックストリート)『出版ニュース』No. 2118(2007年9月中旬号), 2007. 9, pp. 32-33.
- ◆福田誠治「今学力が変わる(1)」(教育時報107)『学校図書館』

No. 683, 2007. 9, pp. 70-71.

- ◆福田誠治「今学力が変わる(2)」(教育時報 108)『学校図書館』

No. 684, 2007. 10, pp. 48-49.

【共通】

- ◆「第21分科会 図書館利用教育委員会 みんなで創ろう図書館利用教育！ー実践アイデア交流広場(平成19年度(第93回)全国図書館大会への招待)ーテーマ=つなげよう未来へ、ひらこう現在を 図書館はカー文化が集まる、情報が集まる、人が集まる」『図書館雑誌』101(9), 2007. 9, p. 622.
 - ◆「特集: 情報リテラシーの育成と図書館サービス」『現代の図書館』45(4), 2007. 12, pp. 183-233.
 - ◆大城善盛「情報リテラシーと図書館サービス」(特集: 情報リテラシーの育成と図書館サービス)『現代の図書館』45(4), 2007. 12, pp. 183-189.
-

(6) 編集後記

第69号をお届けします。今号では、3月に京都で開催される図書館利用教育実践セミナーのお知らせを掲載しました。関心のある方はぜひご参加ください。(春田)

(7) 利用教育委員会委員

(委員長)

青木 玲子 : 埼玉県男女共同参画推進センター

(委員)

赤瀬 美穂 : 京都産業大学図書館

有吉 末充 : 京都学園大学人間文化学部メディア文化学科

石川 敬史 : 工学院大学図書館

木下 みゆき : 大阪府立女性総合センター情報ライブラリー

戸田 光昭 : 駿河台大学名誉教授

野末 俊比古 : 青山学院大学文学部

春田 和男 : 筑波大学大学院博士課程

和田 佳代子 : 昭和大学歯科病院図書室

久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

< C U E > 利用教育委員会通信 第 69 号 (18 巻 5 号) 2008. 2. 29 発行

・ バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・ 配信登録・変更・解除・お問い合わせ

cue@jla.or.jp

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。

[戻る](#)